

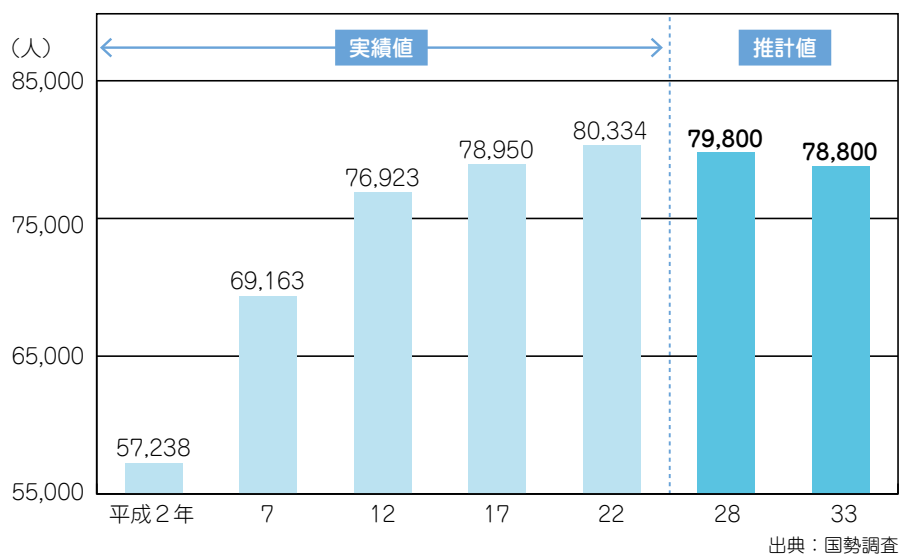
5 将来人口

1 将来人口の見通し

① 人口

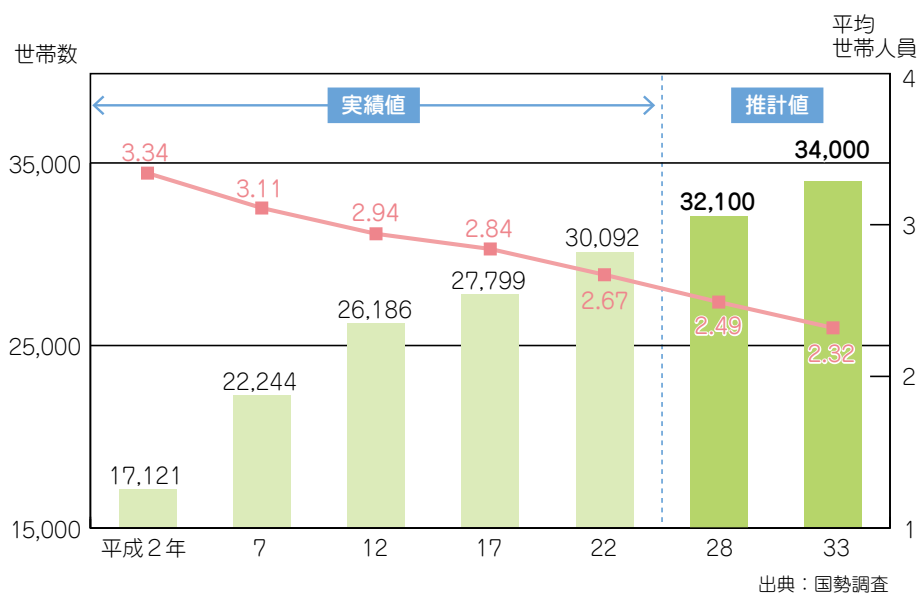
本市の人口は、平成2年から12年までの間、顕著な増加傾向にありましたが、それ以降は、緩やかな増加傾向となっています。

これまでの人口動態や少子化・高齢化の進行を考慮すると、今後は減少傾向に転じるものと見込まれ、平成28年に約79,800人、平成33年には約78,800人と予測されます。



② 世帯数・世帯人員

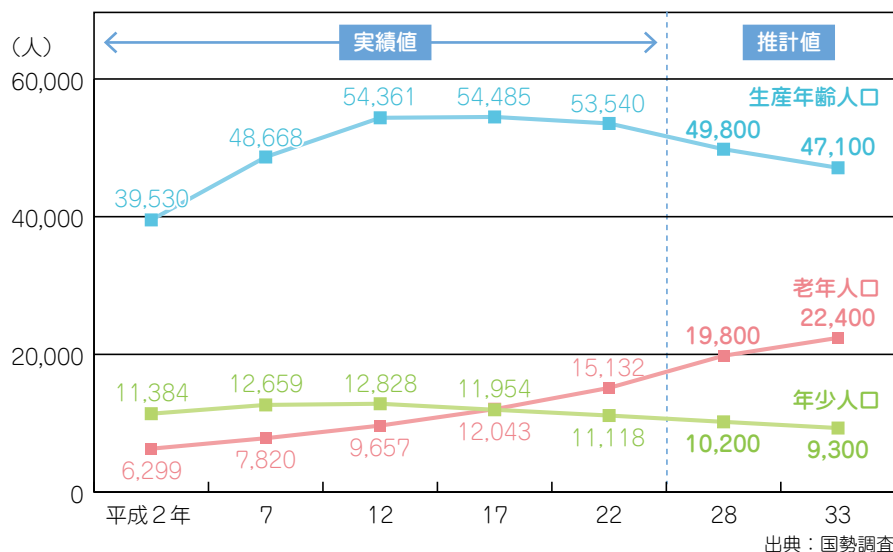
世帯数はこれまでと同様な増加傾向が続くと見込まれ、平成28年には約32,100世帯、平成33年には約34,000世帯と予測されます。一方で、1世帯当たりの平均世帯人員は、今後も減少傾向が続くものと見込まれます。



③ 年齢別人口構成

少子化・高齢化の一層の進行により、老年人口^{*1}では、これまで以上の増加傾向が続く一方で、年少人口^{*2}では、これまで同様の減少傾向が続くものと見込まれます。

また、増加傾向にあった生産年齢人口は、平成17年を境に減少傾向に転じ、今後もその傾向が続くものと予測されます。



2 目標人口

本市の人口は、今後、減少傾向への転換が予測されています。

少子化・高齢化の進行に伴い、生産年齢人口も減少傾向に転じており、地域力の向上や地域活性化などの今日的な課題に対応していくとともに、将来的なまちづくりを考えていくうえでも、若者・子育て世代を中心とした人口増加の取組が求められています。

国全体としても人口の減少局面をむかえ、都市間競争の激化が予想される中、本市への人口誘導を進めていくことは簡単なことではありません。人口の増加に向けては、大きな夢と目標を持って取り組んでいきたいという思いを込めて、平成33年の目標人口を83,000人と定めます。

本市には、人口の受け皿となる未利用地が、北竜台市街地、龍ヶ岡市街地に多く残されています。両市街地への人口誘導を主眼に、本プランに掲げた4つの重点戦略を着実に推進し、人口増加につながる施策を積極的に展開することで、目標達成を目指していきます。

将来目標人口（平成33年） 83,000人

*1 老年人口：65歳以上の人口。

*2 年少人口：15歳未満の人口。